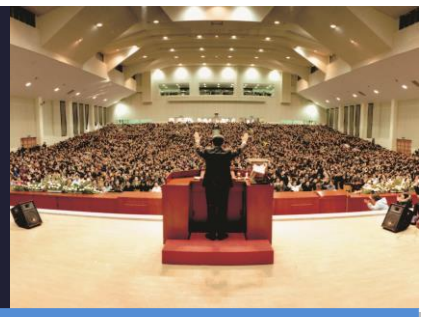
第 2019-15 号

恵みと真理のニュース



2019 年 04 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

経済的な危機におかれた私達の家族を父なる神様が守ってくださいました。助けてくださり、再び立ち直るようにしてくださいました

私は青少年の頃、田舎で住む時、イエス様を信じ教会に通い信仰生活をはじめました。友達と共に聖歌隊で奉仕して早天の礼拝を通いリバイバル会に行きながら楽しく信仰生活をしました。しかし、青年になってソウルに行って職場生活をしながら教会を辞めて主のところを離れました。

　生活が大変で疲れる時、教会で鳴り渡る鐘の音がわたしの心を響きました。しかし、教会に行って礼拝を捧げるべきなのに心だけで決心と実行はしなかったです。そうするある日、夢を見ました。主が来られる夢でした。田舎でイエス様を信じ楽しく教会生活をしていた友達はみな雲の中に導かれて空中で主を受け入れますが、私だけ導かれなくて一人で悲しんで泣いた夢でした。“私も導かれなければならない。”といくらあせても導かれなかったです。

真で怖くて恐れることでした。一方であ！主が私を忘れなかったんだ。主が私を呼んでいると思って感謝でした。しかし、一日も早く教会に行って主を仕える生活をしようと思いながらも結婚をして生活が安定されるなら教会に行こうと後回しました。そうするうちに田舎で親が良い男を紹介してくれると言われました。親孝行をする思いでその人に出会い結婚して一人で教会に通い始めました。

礼拝に参席して説教を聴いて限りなく涙を流しながら神様に悔い改める祈りを捧げました。なぜ、今まで主の懐を離れたのか、なぜ、もっと早く教会に来なかったのか、真に愚かな者でした。父の家に戻った放蕩の息子のように私が再び抱かれた主の懐が本当に暖かったです。礼拝を捧げて教会の外で出て風景をみると以前とは違ってもっと美しく見えました。樹木の柳の葉が揺れるのが私に向かってにっこりと笑っていました。本当に不思議だと思ってまた見ても、やはり私を歓迎して明るく微笑んでいました。

以前には思わず見た山と木と満物が新しく見えてもっと美しく見えました。このすべてが聖なる神様の作品だと思い心から神様に向かう賛美を歌いました。その以後、わたしは賛美歌４０章（主が作られた全ての世界）と８８番（私が真に愛する）賛美歌が好きでよく歌うようになりました。礼拝をする時間ことに説教の御言葉に恵を受けて心が感動され時間が流れるのも忘れました。

ソウルからアンヤン市のビサン同に家を買って引越しをして恵と真理教会の聖徒になり神様を礼拝して主を仕えるようになりました。御言葉と聖霊の充満を受けて以前よりもっと礼拝中心、教会中心の生活をして楽しく主の事をしました。その間、わたしは区域長を続いて首区域長になり旦那も執事になりました。私達の夫婦は共に熱心に信仰生活をする間、神様は旦那の事業場に福を与えてくださいました。旦那の事業場がソウルのヤンゼの近くカンナンのヨッサン同に家を買って引越しました。もうこれ以上は引越しをしなくてその家で長く住む予定でした。当会長の牧師と奥様が訪問してくださって祝福をしてくださいました。その後、事業場が日々繁栄しました。私達は神様の恵みに感謝を捧げてカチョン聖殿で熱心に教会を仕えました。聖歌隊で奉仕をして区域を仕え伝道しながら日々、幸せな信仰生活をしました。

どころが、ある日、帰って来た旦那が深刻な話をしました。“親戚なので信じたけど、親戚の中で主な責任をあずかった取引先なので信じて取引したのが”としました。旦那に何かあるのかと聞くと“急いで白髪手形一枚が必要だといい貸してあげたが、その手形が不渡りになったとしました。その会社の専務で会社の全ての業務を任せていた親戚の頼みだったし、その会社が信頼できるほど丈夫だったのを知り手形を発行したのです。調べてみたら旦那の会社だけでなくいろんな取引先も大きい被害を受けました。

一朝にして旦那の事業場を整理しなれればならなかったです。私達が持っていた二つの家まで競売で渡され空手になってしまいました。理解できなくて許すことが出来なかった事でした。あまりにも悔しくて後では神様を恨みました。、この事実を知った親は田舎に来るとしましたが、面目がなくて親がいる田舎には行かなかったです。すると父は農業をする畑を渡しました。それを処分したお金で私達はアンヤンに再び引越しをしました。教会の近くに行ったのです。

憎む感情が出来て悔しいと思うときことに“この心を誰が分かってくれるかな。”と神様を見上げました。憎む感情が出来て悔しくて恨む考えがする時ことに神様に祈りました。神様を恨んだわたしの過ちを悔い改めました。神様をもっと信頼するようになりました。

神様から慰められて以前よりもっと熱心に聖歌隊で奉仕して力を尽くして区域長の職分を担えながら生きました。教会で礼拝を捧げ奉仕をして伝導すると心が落ち着いて新しい力と勇気が出来ました。伝道の実りがあって生活の喜びも感じました。ハレルヤ！

軍隊から除隊した後、主日礼拝だけ参席して奉仕はしなかった息子が変化され主日３部の礼拝の聖歌隊で奉仕して青年奉仕宣教会を仕えながら熱心に信仰生活をして私をもっと喜ばせています。相変わらず主を愛し環境と状況が同であれ心を尽くして神様を礼拝をして主のことに力を尽くしたら神様が小さくて大きい恵を与えてくださいました。

最近は良い家を買うように神様が助けてくださってもうすぐ新しい家に引越しをする予定です。年をとってあちこちいたいところが多いですが、癒しと祝福の祈りの時間ことに、手を置いて祈ることに神様が治療してくださり、健康にしてくださいます。旦那の信仰も真実な信仰で完全に回復させてくださるのを信じ神様に祈ります。私に下さった勧士の職分にも感謝しながら聖徒の手本になるように礼拝と伝道と奉仕することに最善を尽くします。

わたしの魂よ、主をたたえよ。わたしの内にあるものはこぞって／聖なる御名をたたえよ。 わたしの魂よ、主をたたえよ。主の御計らいを何ひとつ忘れてはならない。 主はお前の罪をことごとく赦し／病をすべて癒し 命を墓から贖い出してくださる。慈しみと憐れみの冠を授け 長らえる限り良いものに満ち足らせ／鷲のような若さを新たにしてくださる。（詩篇１０３：１～５）ハレルヤ！

［信仰コラム］　聖書に啓示された不信者の実状

"...しかるに，あわれみに富む神は，わたしたちを愛して下さったその大きな愛をもって，罪過によって死んでいたわたしたちを，キリストと共に生かし"（エペソ人への手紙 2:1～5）

人は自分の実状を必ず知らなければなりません。これより急務なことはありません。実状とは実際の状態です。私達が鏡を見ると自分の外貌の実状を知ることができます。しかし、自分の霊的な実状は鏡を通じてみることができません。人間の霊的な実状を赤裸々に見せてくれる鏡があります。それは聖書です。

人々が神様の御言葉に接して自分の実状を確実に知ると神様に進むようになり、イエスキリストを迎接するようになります。不信者達が神様の御言葉を聞くと自分が神様の怒りの下にあり、結局審判を受け地獄刑罰に処される罪人だという実状を知るからです。聖書はこれに関してとても明らかで十分な知識を提供しています。

地獄に関する話しをすることは決して愉快なことではありません。しかし、我が周囲に未だに地獄に向いていく人々がいるので楽しくなくても地獄に関して話さなければなりません。イエス様は"また，からだを殺しても，魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。むしろ，からだも魂も地獄で滅ぼす力のあるかたを恐れなさい"と直接言われました。地獄がないとしたら聖書にそのように多くの節が神様の審判と地獄に関して記録されるべきの理由がなかったでしょう。ヘブライ書 9 章 27 節に"そして，一度だけ死ぬことと，死んだ後さばきを受けることとが，人間に定まっているように"と記録されています。

万が一、地獄がないならイエスキリストがこの世にお越しになったことと死と復活が必要ではなかったでしょう。イエスキリストの誕生と死と復活は私達を神様の怒りからと地獄刑罰から救うためのことです。万が一、地獄がないと福音を述べ伝える理由がありません。福音を述べ伝えるようイエス様が命じられました。福音を伝えるためにはたくさんの苦労と犠牲が求められます。

イエス様は地獄にいる人の状態に関して、地獄の実状を生々しく描写したお話を聞かせてくださいました。金持ちと貧しい人ラザロの比喩です。聖書は地獄に関して話すだけではなく、そこを避ける方法も教えてくれています。避ける方法はたった一つです。悔い改めてイエスキリストを信じることです。

二種類の人生があります。一つはキリスト人の人生であり、他の一つは不信者の人生です。人が下すことができる二種類の決定があります。キリストを迎接する決定とキリストを排斥する決定の二つの中で一つです。人の魂には二種類の運命があります。天国に行くことと地獄に行くこと二つの中で一つです。神様が各人に自ら選択する権限を付与なさいました。地獄はイエスキリストを信じない人の死と触れ合っています。取り直すことができない瞬間である死は思い設けなく来て、誰にも来ます。地獄に入らないためには今決断すべきです。まだイエスキリストを信じない人だとしてもこの時間、決断してイエスキリストを自分の救い主として信じて迎接すると地獄の権勢から離れます。

神様は人が地獄に入ることを願われません。一人も滅ばなくて全て救いに至るように願われます。なので罪人を罪とサタンと滅びから救うために独り子イエスキリストをこの世にお送りなさいました。そして私達の罪を贖うようになさいました。神様の怒りと審判と地獄の実状を考えると福音を述べ伝えることより急を要して善の事はありません。

皆さんは、多くの人々に福音を述べ伝えて暗みから光に、サタンの権勢から神様に帰るようにして、地獄に行く者を天国に向くようにすることに励んでください。不信者達に彼らの実状を明確に知らせてください。このために聖霊様の助けを求めてください。そうして多くの人を救いの道に導く喜びを持つように祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

ダビデの神本主義（その1）

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

聖書には、人が神本主義で生きなければならない理由が明らかに啓示されています。創世記 1 章 1 節に**「はじめに 神は 天と 地とを 創造された」して、27 節には「神は 自分のかたちに 人を 創造された. すなわち, 神のかたちに 創造し, 男と女とに 創造された」**と記録されています。造られた存在である人は、自分を造られた神の御心に従って、生きるのが道理であり、当然の事です。

神本主義の根幹となる戒めがあります。神がモーセを通して与えられた 10 個の戒めです。第 1 の戒めから第 4 戒めまでは神との関係に属する戒めであり、第 5 の戒めから第 10 の戒めまでは人間関係に属する戒めです。神との関係に属する戒めは、救いを得るに関連があります。対人関係の戒めである第 5 の戒めで第 10 戒めまでは救われた人々が当然に実践例証しなければなら戒めです。イスラエルの昔の歴史を調べてみると、彼らは神から罰を受けて異邦の国の圧制に遭ったり、国が滅びて捕虜になって見知らぬ土地に連れて行かれようになった原因は、十戒の第一の戒めから第 4 戒めまでの戒めを守られなかったからです。言い換えれば神本主義の根幹となる戒めを破ったからです。

第一の戒めは「あなたはわたしのほかに, なにものをも 神としてはならない。」です。創造主の神は、唯一の礼拝の対象です。**第二の戒めは、「あなたは 自分のために, 刻んだ 像を 造ってはならない. 上は 天にあるもの, 下は 地にあるもの, また 地の 下の 水のなかにあるものの, どんな 形をも 造ってはならない それにひれ 伏してはならない. それに 仕えてはならない. あなたの 神, 主であるわたしは, ねたむ 神であるから, わたしを 憎むものは, 父の 罪を 子に 報いて, 三, 四代に 及ぼし」**です。どんなの形状を媒介にして祈り、礼拝することは、神の戒めに背く行為です。**第三の戒めは、「あなたは, あなたの 神, 主の 名を, みだりに 唱えてはならない. 主は, み名をみだりに 唱えるものを, 罰しないでは 置かないであろう」**です。神の名前を軽薄と不用意に言わないようにしてください。イエス・キリストが来られた以来、神の御名には「イエス・キリストの神」という概念を持って呼ぶであります。**第四の戒めは「安息日を 覚えて, これを 聖とせよ」**です。安息日は完全に、永遠の安息を与え「安息日の主人（マタイ 12：8）」であるイエス・キリストの模型と影です。したがって、教会は初代教会の見本にしたがって、イエスが復活された日である安息日が過ぎた初日の日曜日に礼拝をします。

ダビデは神本主義に住んでいた人々のモデルの一人です。

ダビデの記録は サムエル記上 16 章からです。ダビデはイスラエルの十二部族のうち、ユダの部族に属するし、エッサイの息子の中の末っ子です。ダビデは少年期のほとんどを父の羊の群れを守り、野原で生きました。ダビデは非常に誠実し勇敢でした。一方、彼は神を賛美するのを好みました。神はサウル王が神本主義から完全に人本主義に転落したのを見て、サウル彼を捨ててダビデを選ばれました。今日の本文に**「その 時, 人々が 王を 要求したので, 神は ベニヤミン 族の 人, キス の 子 サウロを 四十年間, 彼らにおつかわしになった. それから 神は サウロ を 退け, ダビデ を 立てて 王とされたが, 彼についてあかしをして, 『わたしは エッサイ の 子 ダビデを 見つけた. 彼はわたしの 心にかなった人で, わたしの 思うところを, ことごとく実行してくれるであろう 』**と記録しました。

神が預言者サムエルに言われた、「私はあなたをベツレヘムの人エッサイのところに送るのだから、これは私がその子の中から一りの王を備えて置いたからである。」としました。そして、角に油を満たして持って行って、神が指示する者に油を注いました。預言者サムエルは、神の指示のどおりにすることを恐れていました。すると神がサムエルに、ベツレヘムに行って祭祀儀式を行いながらエッサイとその息子たちを犠牲祭に招きしました。サムエルが神の御言葉の通り祭祀儀式を行いし、ダビデに油を注ぎました。この日後、ダビデが主の霊に大きく感動しました。主エホバがサウルから離れ去ってサウルは、邪悪な霊に苦しめられるようになり、国が不安定な状態になりました。

これらの都合の状態を知ってペリシテが戦いを挑んできました。サウル王が軍事を募集してこれらに対応しました。谷を挟んで両側の軍事が対戦しました。この時、ペリシテ軍の隊長ゴリアテが出て来て、両方の軍隊の代表格である隊長が決闘して戦争の勝敗を決定するのを要求しました。彼は「私は今日、イスラエルの軍隊を侮辱したので人を送ってわたしと共に戦いなさい」と叫んで上げました。イスラエルの軍事はゴリアテの巨大な体躯と重武装した姿、そして力強い声に圧倒されました。このように、両方の軍事対峙した中で 40 日間ゴリアテがその姿を現し、イスラエルを侮辱して威圧したら、イスラエル軍は、精神的に抑圧と疲弊が深刻で意気を喪失して戦々恐々しました

父の指示で兄たちに食糧を伝えるために戦場に到着したダビデはゴリアテがイスラエルを侮辱し脅かす姿を見ました。ダビデがそばにいる兵士たちに「この割礼のないペリシテ人がなぜ生ける神の軍隊を侮辱しますか？」と言いました。ダビデのこのような態度は軍人に特別に考えられていました。そしてサウル王にこの事実が報告され、ダビデは王の呼びかけを受けました。ダビデは王に行って、自分がゴリアテと戦うと言って自ら要請しました。ところが王の反応は否定的でした。勇気と愛国心は、すごいですが現実性がないのを示唆だと断られました。

しかし、ダビデは王を説得するために、自分の体験談を語りました。「私の父の羊を飼う際に獅子や熊が来て、羊の子を抱えていくと私がそのあとを追って行って、それを打って、その口から 羊の子を救い出すし、それが私に襲い掛かれば私がそのひげをつかんで、それを打って殺しました。主は私を 獅子の爪と熊の爪で救い出して与えになったのです、 私をこのペリシテ人の手でも救い出すことです。」すると王はダビデがゴリアテと戦うことを許しました。

ダビデは手に棒を持って川で滑らかな石を五つ選んでポケットに入れて手で 石投げを持って敵将ゴリアテと戦うために敵陣に向かって進みました。両側の軍事は息を沈んで、この予想外の接戦を守って見ました。いよいよ敵将ゴリアテが盾を持った者をともに破線に出ました。背が 2 メートル 80 センチにもなる巨体でした。頭には青銅兜を被って体に鱗鎧を着て、足には青銅ゲートルを打ってつるぎを持って肩に青銅投げ槍を持て、誰が見ても、ダビデはゴリアテの対戦相手ができませんでした。二人の距離がますます近くなるとゴリアテがダビデの姿を見ると呆れました。戦争に出てきた 敵将という者が手に棒を握ってよろいの代わりに、 羊を飼いのポケットをかけて出るのに、その容姿を見てどのようなかわいいか笑いが出てくる状況でした。だからゴリアテは声高く**「 ペリシテびとは ダビデ に 言った, 「つえを 持って, 向かってくるが, わたしは 犬なのか 」. ペリシテ びとは, また 神の 名によって ダビデ をのろった. ペリシテ びとは ダビデに 言った, 「さあ, 向かってこい. おまえの 肉を, 空の 鳥, 野の獣のえさにしてくれよう 」**としました。

ダビデも手強くはきはき声で応酬した。 **「ダビデ は ペリシテ びとに 言った, 「おまえはつるぎと, やりと, 投げやりを 持って, わたしに 向かってくるが, わたしは 万軍の主の 名, すなわち, おまえがいどんだ, イスラエル の 軍の 神の 名によって, おまえに 立ち 向かう. きょう, 主は, おまえをわたしの 手にわたされるであろう. わたしは, おまえを 撃って, 首をはね, ペリシテ びとの 軍勢の 死かばねを, きょう, 空の 鳥, 地の 野のえじきにし, イスラエル に, 神がおられることを 全地に 知らせよう」**として、 その ペリシテ びとが 立ち上がり, 近づいてきて ダビデ に 立ち 向かったので, ダビデ は 急ぎ 戦線に 走り 出て, ペリシテ びとに 立ち 向かった. ダビデ は 手を 袋に 入れて, その 中から 一つの 石を 取り, 石投げで 投げて, ペリシテ びとの 額を 撃ったので, 石はその 額に 突き 入り, うつむきに 地に 倒れた. ダビデがゴリアテの剣を抜いてその頭を切らました。ダビデの痛快な勝利で終わりました。これを見たペリシテ軍は逃げに汲々になり 一方 イスラエルの兵士たちが歓声を上げながら追撃して敵を打ち破って、戦利品を獲得しました。

今までの事件の記録でダビデが見せてくれた神本主義の態度は次のとおりです。

第一に、ダビデは、自分ができることかを考えより 神の願いのを考慮しました。第二に、ダビデは神の栄光を非常に考えました。第三に、ダビデは石投げをツールとして活用した、それを頼りませんでした。彼の意志するのは神でした。第四に、ダビデは、神との契約関係にある民の特権を知って、この事実に基づいて大胆に行いました。イエス・キリストを信じる人は、キリストにあって、神と契約を結んだの民です。したがって、ダビデのように神のプライドと誇りを持っている必要があります。神の言約を堅く握って誘惑と迫害と患難に強く大胆に行いします。世と悪魔を恐れる理由はありません。

聖徒の皆さんは、ゴリアテとの戦いで勝利を得たダビデが見せてくれた神本主義的な行動と態度を見て見本にしますように願います。